

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた町での暮らしの継続を大切にし、「やまびこ」独自の理念を作っています。懐かしい風景や思いを大切に、お過しいただけるように努力しています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼にて「やまびこ」理念を全員で唱和し、理念の共有に努めています		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念をホーム内に掲示、家族や訪問される方々に見ただけのようにしています		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	祭りやその他の行事の参加等、近隣の方へのよびかけをスタッフ・入居者共にほうもんし行っています。又、近隣の方から農作物やお花などを頂く事もあり日常的に受け入れられている事を実感しています		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事や祭りなどに参加し、その中での地域の方々との交流を行っています		
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地元の高齢者の相談・援助等が出来る機会を常に、持てるように考えています。地元の方や、社会福祉協議会からの相談があり、相談業務やカンファレンスに参加します		代表者・施設長が地域の高齢者支援活動に参加しています

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を反し外部からの評価を受けることにより、日頃の反省はもとより、1年に1回の外部評価の貴重な意見を活かし、より良いサービスが出来る事を目指しています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議を通し、月々の報告をする事により、客観的な意見を頂き活かしています。また会議のなかで、行政を交えて地域の高齢者介護を話し合う有効な場となっています		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者相談などに市の介護保険課・福祉課に相談したり意見交換をして、より良いサービスに取り組んで余す。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前、社会福祉協議会を、日常生活支援事業として利用されている方がありましたが、現在は必要とされている方はいらっしゃいません		これから職員及びご家族様に対し、包括支援センターの説明の実施をしたいと考えています
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会・スタッフ会議で、虐待・尊厳・その人らしさということを話し合い虐待は未然に防止できるような体制をとっています。スタッフは、熟知し完全な防止ができていると思います		
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長・管理者が契約締結時に十分な説明を行い理解を頂いていると思います。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ボランティアの受け入れ等で、入居の方には不安・不満などを話す機会を持って頂いています。また、スタッフが居室を訪問し話を聞くなどして対応しています。聞き出した内容については、検討・対応し、不安の排除に努めています。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行の「やまびこ」通信にて日頃の様子行事参加外出先での様子をお知らせしています。また、金銭出納帳のコピーと一緒に毎月送付しています。高齢者の方の体調へんかには、重篤になる場合もあり、頻繁に個別にご家族へ報告を行っています。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出席して頂いているご家族の代表に意見を聞いたり、来所頂いた際に意見を拝聴しているようにしています。ホームの中には意見箱を設置するなどしてご家族の意見を反映できるよう考えています。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議・勉強会で意見を聞く機会を設けています。又、夜勤など、時間に余裕のある時に、積極的に声かけ意見を聞くようにしています。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居様希望は最大限そえるよう話し合いを行い、帰宅願望・通院に関しては事前に予定をいれスタッフの確保を行っています。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着が、安定した介護の継続に繋がる事を、十分理解した上で、職員自身の相談援助・助言をしています。退職時には、新たなスタートを、利用者と共に、応援しながら送り出し、負の印象が残らないように、配慮しています。		
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されているように努めている	グループホームでの援助に力を発揮して頂ける方々から、明るく、静かな方等、100人100通りの介護が出来るように配慮しています。職員に対しても人生が実り多いものである事仕事場で楽しく働き、能力を十分に発揮してくれるよう応援したいと思っています		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ご高齢の皆様は、人生の大先輩であり、長く社会に貢献してこられたことに感謝し、敬愛する方である事を常々話しています	
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のスタッフ会議や研修会で勉強する事を推奨しています。また交代でスタッフが順番で講義を行っています	
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事を通じての交流はありますが、ネットワークづくりは、まだ準備段階にあります。サービスの向上に繋がる交流の場になるように検討中です。	
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスの多い職場である事を理解し、リフレッシュ休暇や懇親会でのストレスの発散に配慮しています。個人としては、話す機会を多く持ちたいと考えています。	
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	より良い介護支援の為に、人格形成・勉強・勤務態度など、日々向上心を持って取り組んでいく事を奨励しています。又、努力を評価するよう努めます。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時の出会いの場から、安心して色々な話ができるように、思いの共有に努力しています。人生背景を元に、共通の話題等、最初の関係作りに重点をおき、安心して利用が出来るように配慮します。	
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期利用時には、ご家族のこれまでの介護に敬意を払い、今後の思いを十分に理解するよう努めています。これからの状態の変化や、家族と共に支える介護である事を伝えていきます。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談援助の際には、状態に合った色々なサービスの提案をします。又、見学の際、居宅での生活維持が可能であれば、他のサービスの利用や将来的なサービスの開始・時期を提案します。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅での生活が困難な方は、医療機関から直接ホームでのサービスの開始となりますが、在宅に近い形での生活である為、すぐになじんで頂けるようです。又、現在、デイサービスの利用で馴染んで頂き、将来の利用に備える方もいらっしゃいます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	高齢の利用者の方には、人生の先輩として学ぶことも多く、職員が教えられる場面もあります。介護者・利用者の立場だけではなく、良き隣人として支え合う関係である事を望んでいます。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を大切に、面会や行事への呼びかけを積極的に行っています。利用者にとっての家族の存在の大きさを理解して頂き、共に支える事を伝えています。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	同居・別居を問わず介護等での問題を残している方が多く、入居と同時に相方の思いをじっくり傾聴する等関係改善に努めています。面会・支払時に日頃の状況を報告家族からの希望を聞き添うようにしています。家族間には失礼にならない程度に関る		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係が途切れないように、電話や来訪の支援に努めています。又、定期的な外出等を促し面会の声かけをしています		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係では一方的な思いもある等お互いの負担にならないように、また、孤立しないように、沢山の工夫が必要であり最大限の支援に努めます		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	季節の頼り、通信の送付を行い近況をお知らせしています。退所後もボランティアや行事への参加を呼びかけています		退居後も季節のお便りだけでなくボランティアなども含めて交流を深めていきたいと思っています

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で、その人の思いに添った生活支援を第一に考え、望まれている生活であるか、無理をしていないか等生活の様子に配慮しています	
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話の中で聞きだせる方法としてセンター方式を使用し、スタッフ会議・勉強会等で報告しています。また、家族より利用者の生活情報を聞きサービスに取り入れています	
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の暮らしの中で、何が不足しているか、何が充足しているのかを常に考え個別ケアに努めています。また、朝・夕の申し送り全員が把握できるように努めています	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスで情報提供・担当者が家族に直接聞き情報の共有化し、プランに反映しています	
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要の関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	レベル低下その他の症状についてその都度カンファレンスを行いプランの見直しなどを行うようにしています	
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体調にあわせたプランを実践しプランの見直しなどについては原因を検討し、センター方式に則って情報を共有化して新たなプランを作成するようにしています	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	帰宅・買い物・外出・病院等できる限り入居者及び家族の要望にあった支援をしています		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	週に2回のお話しボランティアの受け入れを行い入居者の方が安心感を持たれている様子。又ボランティアの受け入れ、地域の学校の体験学習も受け入れ学習以外でも行事の参加呼びかけをしています		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用以前の担当ケアマネジャーとも連絡を取り合い、支援の連携をしています。状況に応じて、他の施設利用の相談援助も行っています。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、予防給付の利用者はいませんが、以前は、連絡を取り連携していました。また、地域の拠点や、介護予防などの協議を行っています。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医療や訪問看護を利用し、定期的なDrの往診・検査等で家族に報告をしています。何か異常があった時や、必要が生じた場合にはDrからの説明をして頂いています		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	在宅医療を通じ認知症専門外来を紹介いただき、受診指導を受けています。また、入居・家族の方の希望に応じて専門医の受診も支援しています		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週3回の訪問看護を利用し、看護師との連携をとり指導を受けています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	長期入院の機能低下が著しいため、常に医療機関に働きかけています。利用者本人の強い退院要望があり、家族との連携にも考慮しています。安心して入院治療が出来るよう、退院後の相談援助をしています。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の指針を設け、終焉の迎え方や、延命治療等の希望を、早期の段階で、利用者や家族と話し合います。又、その時期を迎えた場合は、家族の揺れる思いに配慮し、繰り返し話し合いを行います。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアでの支援を、医療機関や家族との連携・話し合いで行っています。在宅で迎える終焉のあり方の説明を行い、納得・協力の上での支援となります。静かに、穏やかに、その時を迎えられよう時々の変化に対応した支援をしたいと考えています。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者や家族の希望により、他の利用を開始される場合は、関係者との協議や、情報提供を行っています。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	高齢の利用者の方の人格・プライド・尊厳を大切に、生きる気力となるよう配慮しています。個人情報保護法に基づき、プライバシーの保護に注意し支援しています。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	高齢の利用者には、希望や要望が過剰になったり、行動のみの希望表出であったり、表出できない方がいたり、多様な対応を迫られる為、見過ごさない努力や過剰な支援にならないようしています。又、自己決定の機会が少なくなりつつある事を考慮し、その機会を多く持ちよう支援しています。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活での生活支援である為、業務優先になる可能性が高くなることを考慮し、常に、個人支援を優先するように心掛けて支援を行うよう努力しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	高齢になっても、女性としての意識を持ち続ける事を大切に、「素敵ですね」「綺麗ですね」の言葉掛けを、喜んで頂いています。希望される方は、個々の店舗に行ってくださいます。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事は、大きな楽しみである事を理解し、季節に応じた食事や、おやつ作り・干し柿・漬け物など、協力して楽しく参加できるよう配慮しています。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご利用時、嗜好の確認を行い、日々の食事に活かしています。又、ご希望により、買い物ツアーで購入されたり、頼まれて購入したり、外部の配達などの利用をしています。利用者は、リクエスト表に記入して、食べたい物を希望したりできます。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンや習慣での支援を行っている方は、スムーズに失敗も少ないようですが、プライドの高い方や、頑固な利用者の方には、厳しい支援うい強いられています。尿意がある方や、自立排尿が出来る方には、安易な取り組みにならないよう努力しています。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望のある方が多い為、時間配分や、毎日の入浴への取り組みなど、配慮しています。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転や、昼食後の休憩・安息など、個人の状況によつての支援を行っています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の取り組みや、リハビリ目標としての取り組みなどの役割、家庭菜園での野菜作りや、裁縫などの生活歴を活かした役割などを楽しんで頂いています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる方には自己管理で所持、買い物ツアーでの使用では、預り金よりお支払頂くなど、個別対応を行っています。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じ、外出・通院・買い物・散歩等、かなりの頻度での個別対応の支援が来ています。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	名所・お祭り・外食など、少人数や、全員での参加など、外出の機会を多く持つように努力しています。又、家族との外出も大いに進めています。		
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれる方は、少ないのですが、家族や知り合いの方への電話を希望される方は多いので、対応しています。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	どなたでも、気軽に、頻繁にお出で頂くよう声かけをしています。ご家族を含め、友人・お知り合いの方の訪問も多いようにかんじています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行う精神的負担を考慮し、あらゆる身体拘束をしないケアを行っています。ただし、生命に危険が及ぶなどの場合には、ご家族の了解を頂いた上で行う等の説明をしています。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常的に、玄関・居室の施錠は行っていません。どのような状況であっても、自由で開放的な生活支援ができるよう努力しています。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に所在を把握すべき人・見守りだけの人・安全確認が必要な人等、個別対応を行っています。プライバシーに配慮したの支援となります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険であるから全て排除との、安易な取り組みは好ましくないと考え、支援しています。個人的には、危険の排除・安全面の工夫と考慮すべきことも多くあります。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止委員会の設置に加え、全てのヒアリング・事故の話し合いや改善案・取り組みを行っています。又、火災・救命救急においては、ボランティアでの講師による勉強会等も行っていきます。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	研修会・勉強会で、繰り返し行うことや、急変時の対応方法を掲示して、事故発生時に備えています。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は、一年に2回実施。自然災害にかんしては、避難訓練が行っていませんので、日頃の声かけ指導のみでの取り組みです。日頃より、地域の方々への支援の働きかけを行っています。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用時には、自由にお話し頂く事のリスクの説明を行っています。又、高齢の方々には、突然の変化がある事も、充分理解して頂く様お願いしています。		
78				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少人数である事や、常に利用者の近くでの声かけや支援である為、日頃の変化や、体調変化に気づきやすく、早期発見の必要性を大いに感じての支援をおこなっています。小さな見落とすことなく、気づいた介護者が、すぐに報告・連絡するよう話し合っています。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬性は、常に目を通す場所にあり、服薬の目的・副作用・用法・用量についても把握しています。又、状態の変化・服薬の変更の確認も、報告・連絡を行っています。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	高齢の利用者の方々は、内臓機能の低下、特に腸の機能低下や、それに伴う腸閉塞などの疾病が懸念される為、日頃より、予防・運動・食事の工夫・薬の利用などを考慮しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの必要性は高く認識し、全員の取り組みを行っていますが、昼食後のケアが難しい方が多くいらしゃいます。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事を把握し、記録しています。日々の体調の変化に合わせ、水分量の摂取と尿量を記録・報告し医師の指示を仰ぐようにしています。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルをつくり、取り組んでいます。風邪の際は、医療機関に早期の検査をお願いし、対応しています。季節の感染拡大に十分に備えるように、予防接種・うがい・手洗い慣行などで心掛けています。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒防止の為、調理器具の消毒・漂白・熱処理などで対応しています。新鮮・安全・旬の食材の購入にきをつけています。		
82				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門の設置も無く、親しみの持てる空間の工夫や、安心して出入りができるスロープの設置を行っています。又、ホームから、通行の方々に声かけが出来やす構造になっています。も		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースや玄関ホールには、ソファを設置して、団欒の場となっています。居間や玄関ホールは、天井が高く、太陽の温かな光が差し込み、季節の風景が楽しめます。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では、賑やかな笑い声や、話し声が聞かれ、参加する方・眺める方と様々な過ごし方をされています。玄関ホールでは、一人や、少人数での語らいの場になっています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご自宅より使い慣れた物や、必要な物を持ってこられ、利用者の方に合った空間を作られています。又、ご自分で好きなように模様替えをされたり、ご家族の持ち込みもあります。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度・湿度・空気清浄には、換気や、機械の利用で、配慮しています。冬場の寒い時期には、利用者の方が居室に戻られる時間帯に、窓を開け換気をしています。空調の管理ができない方が多い為、職員が、気がけて行っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差や階段はなく、広い廊下・トイレ・洗面所・浴室には手すりを設置し、安全な歩行や生活ができるようにしています。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日々によって変化のあるご高齢の利用者には、その時々合った対応を探り、時間や場所を越えた今を共有するよう努力しています。長年ご利用の方々の力の変化に寂しい思いを感じていますが、利用者の方の今を大切にしたいと考えています。		
89	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭には家庭菜園があり、野菜作りや収穫を楽しんでいらっしゃいます。北側には、テーブルセットを設置し、日光浴やお茶を楽しむ機会が多くあります。広い空間を利用し、散歩や気分転換をされたりしています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

終の棲家として、最後の出会いを大切に、思いで多い人生を共有したいと思っています。活気ある生活をされていると思います。出来る限り利用者の希望を取り入れて、共同生活の中での、個人としての生活・お仲間としての生活を楽しんで頂ける配慮しています。地域の交流も積極的に支援し、行事等地域の方近隣の住民の方への参加を積極的に行っています。一番は、入居者様の笑顔・元気・太陽の光がざんざんと降り注ぐ居間・懐かしい牧歌的風景です。